

## 【テーマ9】 国立大学法人東京学芸大学

## 「教職大学院における「理論と実践の往還」を実現する教科領域教育の導入と質保証に関する実態調査及び「教科領域導入モデル」の開発」

## 調査の概要

## ◆課題認識

- ・教職大学院に、教科領域教育の導入が求められている。
- ・教科領域教育の導入にあたっての「教科領域導入モデル」の開発が急務。

## ◆調査研究の目的

- ・教職大学院の教育課程への教科領域教育導入にあたっての課題や留意点を明らかにする。
- ・調査結果の分析を踏まえ、「教科領域導入モデル」を開発・提示する。

## ◆調査研究の方法

- ・教科領域教育を導入した東京学芸大学教職大学院で、教科領域教育のチーム・ティーチングを担当する教員と、大学院生とを対象にアンケート調査を実施する。
- ・教職大学院の教育課程に先行して教科領域教育を導入した大学を、平成30年度に本学が実施した「教職大学院のカリキュラム・担当教員に関する実態調査」の結果を活用して選定し、訪問調査を行う。

## 取組のポイント・成果

## ◆取組のポイント

- ①教科領域教育を担当する教員や大学院生を対象とするアンケート調査
  - ・チームティーチングについての意見を調査し、教科領域教育のための望ましいチームティーチングの在り方を検討する。
  - ・教科領域教育に関する教育課程のあり方、教育実習と課題研究との連携の状況などを調査し、「質保証」のために取り組むべきことを検討する。
- ②先行して教科領域教育を実施している教職大学院への訪問調査
  - ・教科領域教育の教育課程や授業の在り方を調査する。
  - ・「質保証」のために、どのような取り組みを行っているのかを調査する。
- ③①②の取組の成果をもとに、「教科領域導入モデル」を提示する。

## ◆成果

- 「教科領域導入モデル」を提示した。
- ・教育課程編成に当たっての留意点…共通5領域と教科領域教育の有機的連携
  - ・チームティーチングの留意点…教科教育と教科専門が互譲の精神をもって授業運営
  - ・教科領域教育のための授業設計…チームの規模の適正化、シラバス作成過程における教科教育担当教員による指導助言
  - ・「理論と実践の往還」…教育実習と課題研究の相互連携の仕組み作り

## 今後の課題

## ◆「教科領域導入モデル」の発信

全国の教職大学院に、今回提示した「教科領域導入モデル」の発信を行い、教職大学院への教科領域教育の導入を促進する。

※ 上記項目については一例であり、適宜変更してかまわない。

※ 別紙イー②については、文部科学省において公表する場合がある。